【樹木の部屋】

ボケ(バラ科ボケ属　Chaenomeles speciosa)

和名：ボケ(木瓜)　別名：カラモクコウ(唐木瓜)　英名：Flowering quince

バラ目　落葉低木　　原産地：中国

花言葉：先駆者、指導者、熱情、平凡、退屈、妖精の輝き、魅感的な恋

花色：赤、白、桃、橙、複色

← 写真-１　ボケ～ヒボケ(緋木瓜)
撮影日：2021 年 3 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

←↗ 写真-２、３　ボケの花
～ヒボケ(緋木瓜)
撮影日：2021 年 3 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

←↘ 写真-４、５ ボケの花
～サラサボケ(更紗木瓜)
撮影日：2021 年 3 月 20 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

←↘ 写真-６、７ ボケの葉
撮影日：2021 年 3 月 20 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

大和郡山市郊外の民家の庭に咲いていました。

ボケは、庭木や盆栽、生け垣、切り花として観賞され、200 を超える品種が栽培されている花木で、漢名の「木瓜(もっか)」が転訛して「ボケ」と呼ばれるようになったそうです。

ボケには、日本原産のクサボケ(草木瓜：C.japonica)、中国のマボケ(真木瓜：C.cathayensis)とボケ(木瓜：C.speciosa)の 3 種があり、一般的には中国原産のボケ(木瓜)をボケと呼ぶそうです。が、今では厳密な区別は無く、混同しているそうです。

茎は叢生してよく枝分かれし、若枝は褐色の毛があり、古くなると灰黒色に変わります。また、樹皮は縦に浅く裂け、小枝は刺となっています。

葉は長楕円形から楕円形で互生し、鋭頭でまれに鈍頭、基部はくさび形で細鋭鋸歯縁です。葉の付け根に腎臓形の托葉がつきます。

花は葉が芽吹くよりも先に、短枝の脇に数個の 5 弁花を咲かせます。様々な品種が

あり、雄性花と雌性花があります。
　秋に結実する果実は楕円形で、果皮は黄色味を帯びて落果します。果実は落果する前の青い未熟果実を採取して、水洗い後に輪切りにしたものを天日乾燥して調製され、木瓜(もっか)と呼ばれる生薬になるそうです。補血、強壮、疲労回復、咳止め、食あたりのほか、筋肉のひきつり(こむらがえり)や暑気あたりに効用があると言われています。また、ボケ酒と呼ばれる果実酒にすることもあるそうです。
　日本へは、平安初期以前に渡来したそうで、元禄年間の園芸書には、淀ボケや八重ボケなどの多少の品種が記録されている程度で、明治時代まではほとんど園芸には用いらなかったようです。大正時代になって新潟県や埼玉県を中心に栽培されるようになり、昭和になると品種改良も盛んに行われて一般化してきたそうで、現代では、200 を超える品種が生み出され、庭木や生垣、鉢植え、切り花と広く利用されているそうです。さらに昭和 40 年ごろから、数多くの品種が発表されるようになり、ボケの第二次ブームが起こったそうです。

＜ちょっと一言＞

＊ボケには園芸品種が多く、花の色や形状は変化に富みますが、以下のように大別されています。

・紅花の品種：ヒボケ(緋木瓜)、カンボケ(寒木瓜)
・白花の品種：シロボケ(白木瓜)
・紅白混合の品種：サラサボケ(更紗木瓜)